

トキっ子学習塾とは

佐渡市立新穂小学校

校長 香遠 正浩

1 トキっ子学習塾のねらい

- ◎ 遅進児への知識や技能の補充指導の場ではなく、発展的な学習による学ぶ楽しさを味わわせ、思考力等を育成する場とする。
- ◎ 異学年からなる集団（トキっ子班）で学ばせ、上学年が下学年に教えざるを得ない状況をつくることで、下学年だけでなく上学年の子どもも思考力等を高めることが期待できる場とする。
- 通常学級担任の教材研究の時間を確保する場とする。

2 実施方法

(1) 実施時間

- ・毎週月曜の3時から3時半までの30分間を「トキっ子学習塾」の時間とする。

(2) 対象

- ・学習遅進の子どもではなく、全校児童（特別支援学級児童を除く）を対象とする。

(3) 方法

- ・トキっ子班単位（各班9～10名）で異学年合同自主学習をさせる。
- ・自習監督は、コーディネーターと学習支援員（現在12名）とで行う。
- ・問題は校長が作成し、毎回開始前に学習支援員に実施方法とともに伝える。
- ・3時半になったら終了し、教室に戻らず下校させる。
- ・担任は、その時間を「学年部研修タイム」とし、校内研修で目指す授業像の具現を目指した日々の授業の構想や振り返りを行う。
- ・子どもが取り組んだプリントの処理は担任が行う。
- ・学習支援員に各班の学習の様子を一言書いてもらい、その一覧を職員に回覧する。
- ・見本となる解答や作品は、廊下の掲示板を利用して紹介したり、称賛したりする。

3 問題作成の基本方針

- ◎ 学年によって取り組む内容が異なると、上級生であっても下級生に助言しにくく、異学年で学ぶよさが表れにくい。そこで、基本的に全学年に同じ問題を与える。
- ◎ 「知識」や「技能」を要さず、1年生でも解決できる問題とする。
- ◎ 主に「数学的な考え方」を高めることをねらった算数的な問題を作成する。
- 学習支援員の監督はあるが、基本的に自習なので、学習の進め方も書いてある問題プリントを全校児童分用意し、6年生をリーダーに取り組みせる。
- 同内容の問題ではあるが、上学年に高いレベルまで求めたい場合は、下学年と上学年とでねらいの程度が異なる問題を作成する。